

予定。

面積は2万

処理能力は

m²/日。

実施方針・

策定。来年

同書の公表

の募集。22

業者の決定

MBR法に

は、23～24

埋棟の撤去

施設の設

に新水処理

事。30年の

な時期はま

来年度の早

て現在検

査。



説明会のもよう

メンテナンス協会が現在

軍艦島で曝露試験状況調査
「亜硝酸リチウム優れた効果」

コンクリートメンテナ
ンス協会の徳納剛会長
(福德技研)と峯松昇司
副会長(井上建設)は3
日、コンクリート工学会
のメンバーや芝浦工業大
学の学生らとともに長崎
市にある軍艦島(端島)を
訪れ、塩害環境下における
補修材の効果確認実験
に立ち会った。

軍艦島での実験は、コ
ンクリート工学会が20
16年から実施している
「危急存」状態のコンク
リート構造物対応委員
会」の趣旨に賛同して行
っているもの。

鉄筋を埋設したコンク
リート試験体を著しい塩
害環境下に置き、補修材
や補修工法がどの程度の
効果を發揮するかを毎年
経過観察している。

このほか、コンクリート



測定に立ち会う徳納会長(右)

開発中の新材料である亜
硝酸リチウム含有塗料の
実験も開始した。0～3回
まで塗布回数を変えた試
験板を同島の環境に曝露
し今後、試験体と合わせて
観察を行っていくという。

徳納会長は「試験体の
腐食がほとんどなかっ
た。優れた防錆効果が確
認されたと思う」と満足
気。「軍艦島の崩壊は年々
進んでおり、コンクリー
トが永遠の構造物ではな
いと思い知らされる。維
持管理の重要性を再認識
した」と話していた。

正式な測定結果は後日出
るが、当会が設置した亜
硝酸リチウム圧入の試験
体は他と比較して鉄筋の

腐食がほとんどなかっ
た。優れた防錆効果が確
認されたと思う」と満足
気。「軍艦島の崩壊は年々
進んでおり、コンクリー
トが永遠の構造物ではな
いと思い知らされる。維
持管理の重要性を再認識
した」と話していた。

新しい学校空間をサポート

